

「男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業」検討会 2

困難な状況にある女性のための 学び直しを通じたキャリア形成支援

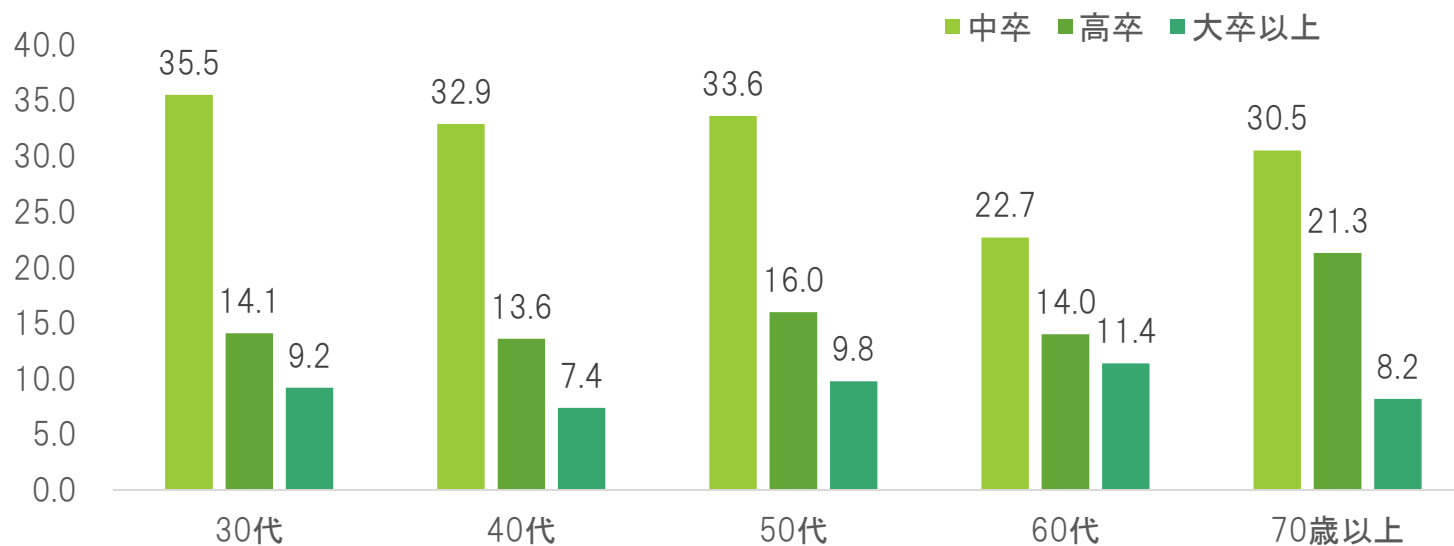
全国女性会館協議会

2020年2月17日

事業の背景

学ぶ力を身に付ける経験の不足がもたらす貧困

女性の学歴別相対的貧困率（2015年）より

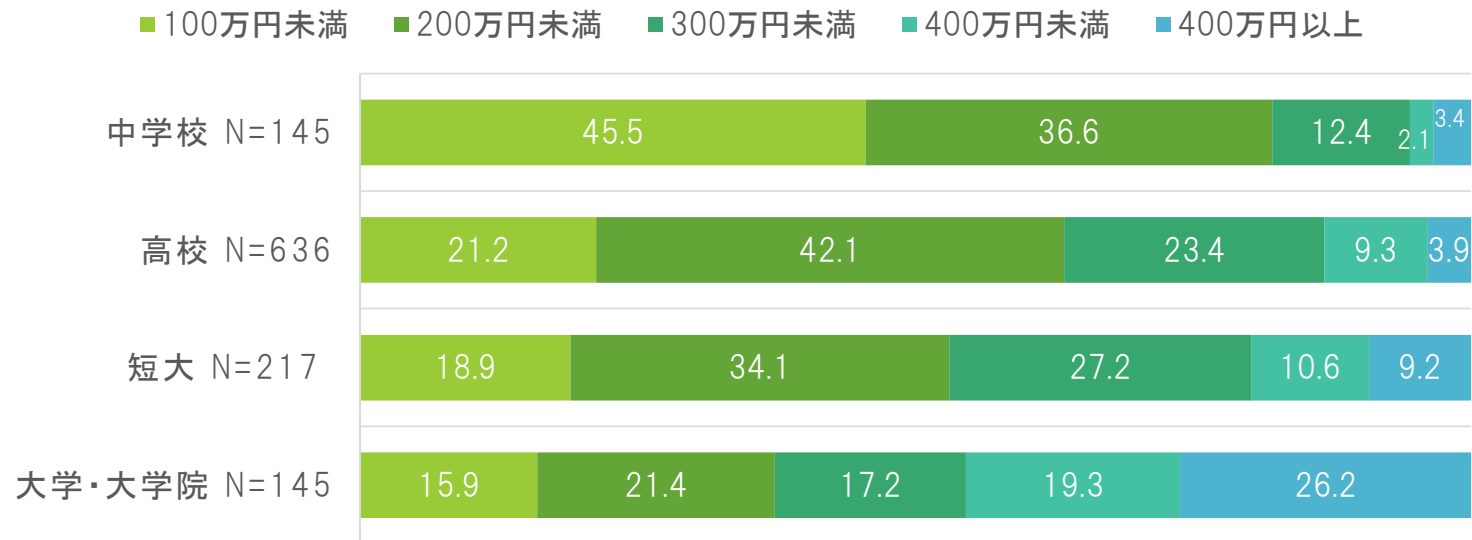


出所：阿部彩(2018)「日本の相対的貧困率の動態：2012から2015年」貧困統計HP(抜粋)

事業の背景

学ぶ力を身に付ける経験の不足がもたらす貧困

母子世帯の母の最終学歴別年間就労収入



出所：平成28年度全国ひとり親世帯等調査結果報告（厚生労働省）

既存の支援事業との違い

■社会福祉分野の「学び」や「キャリア形成支援」

就労促進により生活保護や児童扶養手当などの制度利用からの早期自立を目指したものの

高等職業
訓練

自立支援
教育訓練

就労相談

パソコン
講座等

高卒認定試
験合格支援

など

■子どもの貧困対策として

学習支援

(課題)

- 若年層を対象にしたものが多い
- 就労のみを目的としている
- ジェンダー視点がない
- 自己肯定感が育ちにくい

目的

困難な状況にある女性のための学び直しを通じた
キャリア形成支援モデルプログラムの作成

学びの経験が十分でない女性が
ジェンダー視点を持つことにより
自分の人生が意味あるものと
捉え直すことができるようになる

検討会及びヒアリングの実施

		開催日	内容
検討会	第1回	8月1日	事業の目的、前年度の実施概要、類似事業の紹介
	第2回	9月18日	ヒアリング概要の報告
	第3回	10月21日	プログラム内容の検討、意見交換
	第4回	12月5日	プログラム内容についての有識者コメント、意見交換
ヒアリング		9月上旬	ウィメンズネットこうべ（WACCAスクール） 尼崎市女性センター 慈有塾

事業の前提

【全国の男女共同参画センター等で実施できる現実的な事業】

- 男女共同参画センターの特徴（強味）をいかした事業とする。
- ジェンダー視点のある事業とする。
- 予算規模、スタッフ人数、事業経験の多寡にかかわらず、多くの男女共同参画センターで実施可能な事業とする。
- 大学やNPO等民間団体が実施する事業との相違を意識する。

実現しやすいプログラムにするために

男女共同参画センターの予算規模、スタッフ数、事業経験や蓄積は様々

モデルプログラム



プログラムの枠組み

- 単一のモデルプログラムの提示ではなく、個々のセンターの状況によってカスタマイズできるプログラム枠組み（プログラムの全体像と各要素）を提示する。
- 併せて、各要素の先行事例を提示する。
- 各センターの状況に合わせてカスタマイズするための、事業担当者への研修も行う。

全国女性会館協議会のこれまでの関連事業

- DV被害女性、シングルマザー等困難な状況にある女性のためのPC講座の実施
- シングルマザーのためのPC講座を中心とした職業訓練コースの開発・実施
- 若年無業（非正規）シングル女性のための就業・生活自立支援事業の実施
- 農山村地域における女性の起業支援事業の実施ほか

これら事業はすべて、実施希望館の担当者を対象とした研修を行った上で実施している。

男女共同参画センター事業の特徴（強味）

★継続的、総合的支援が可能

- 情報提供事業、講座研修事業、相談事業によって、切れ目のない支援が可能。
- キャリアと生き方を共に考えることができる事業が可能。
- 居場所事業等を実施するスペースがある。
 - ⇒ グループ・仲間づくりから女性同士の支え合いの仕組みへ
- 一時保育事業などを併設している。

男女共同参画センター事業の特徴（強味）

★ジェンダー視点がある

- ジェンダー格差の解消、女性のエンパワメントという視点がある。
- 従来の女性の生き方の再定義など心理教育の視点がある。

★他機関との連携・協働がしやすい

- 他の社会資源（行政機関、NPO・企業等民間団体）の連携・協働が可能。
- 公的機関としての信頼性が高い。

★福祉窓口の利用より心理的ハードルが低い

- 困難な状況にあるということを周囲から気づかれにくい。

本プログラムの対象者

- 現在概ね40代までの
- 10代の時に十分な学びの経験をもてなかった女性
不登校、高校中退、家庭の事情で進学をあきらめた
小学生の頃から勉強についていけなかったなど
- 生きづらさ、働きづらさを抱えている女性

- これまで男女センターが、あまり対象としてこなかった層。
- 対象者に情報が届きにくい
⇒参加者が集まりにくい。
- 成果、実績を可視化するまでに時間がかかる。

上記条件のほか

スモール・ステップ 小さくてもいいので**目標を持つ**ことができる女性
⇒ そのための個別面談が必須

内容ラインアップ

プログラム	内容
①個別相談（伴走型）	キャリア・生き方相談
②居場所（ゆるい仲間づくり）	おしゃべり会等
③個別学習支援	<ul style="list-style-type: none">・高卒認定資格・「読み」「書き」「計算」の基礎学力・申請書類が読める、書ける
④ワークショップ・講座	からだのケア、呼吸法、料理作り、マネープラン等
⑤ロールモデルの紹介	同じような経験を持ち男女共同参画センターの講座等に参加したことで一歩ふみ出せた先輩の話聞く
⑥職場体験	模擬就労（ジョブトレーニング）含む
⑦情報提供	<ul style="list-style-type: none">・家族関係、子育て等相談における心理教育・従来の“女性職種”以外の職種、働き方・行政の制度等地域の社会資源の活用法

重視する視点 男女共同参画センターならではの視点《特徴》

- なにより自己肯定感を高め、孤立感を薄めることを目的とした事業とする。
- 各種試験の合格率を成果としない（高卒認定の合否、介護士・看護師資格等個別の資格取得を目的にしない）
- 就職＝自立ではない。これを目的としない。
- 小さな目標設定は行うが、時間がかかることを理解する。焦らない態度が必要。
- 事業に参加することによって、生き方の再定義、再チャレンジを可能とする。
- 生き方とキャリアを並行して考えての目標が立てられるよう支援（相談等）を行う。
- 従来の女性職種でない幅広い職業選択への視点を提供する。
- センター内の資源を十全に活用するとともに、地域の社会資源とも連携・協働しての事業とする。
- 行政の生活支援課、生活困窮者自立支援相談センター等とも連携する。

事業により期待される成果

- 困難を抱える女性が個々の小さな目標（スモール・ステップ）を達成することで、自己肯定感をはぐくみ、サポートする人や同じ立場の仲間など他者との信頼関係を築くことができる。
- その結果、自分の人生が意味あるものと思うことができ、将来のキャリア形成においてもポジティブに捉えることができる。
- 男女共同参画センターは、利用者層の拡大が図れるとともに、福祉の利用に抵抗感のある困難を抱えた女性のセーフティネットとしての機能を強化することができる。
- 他機関と連携することにより、連携先の支援者へのジェンダー視点の導入を図ることができる。

実施する上での課題と解決の方向性

課題①

これまでの男女共同参画センターの主な利用者層ではない人が対象のため、ターゲット層へのアプローチが難しい。

課題②

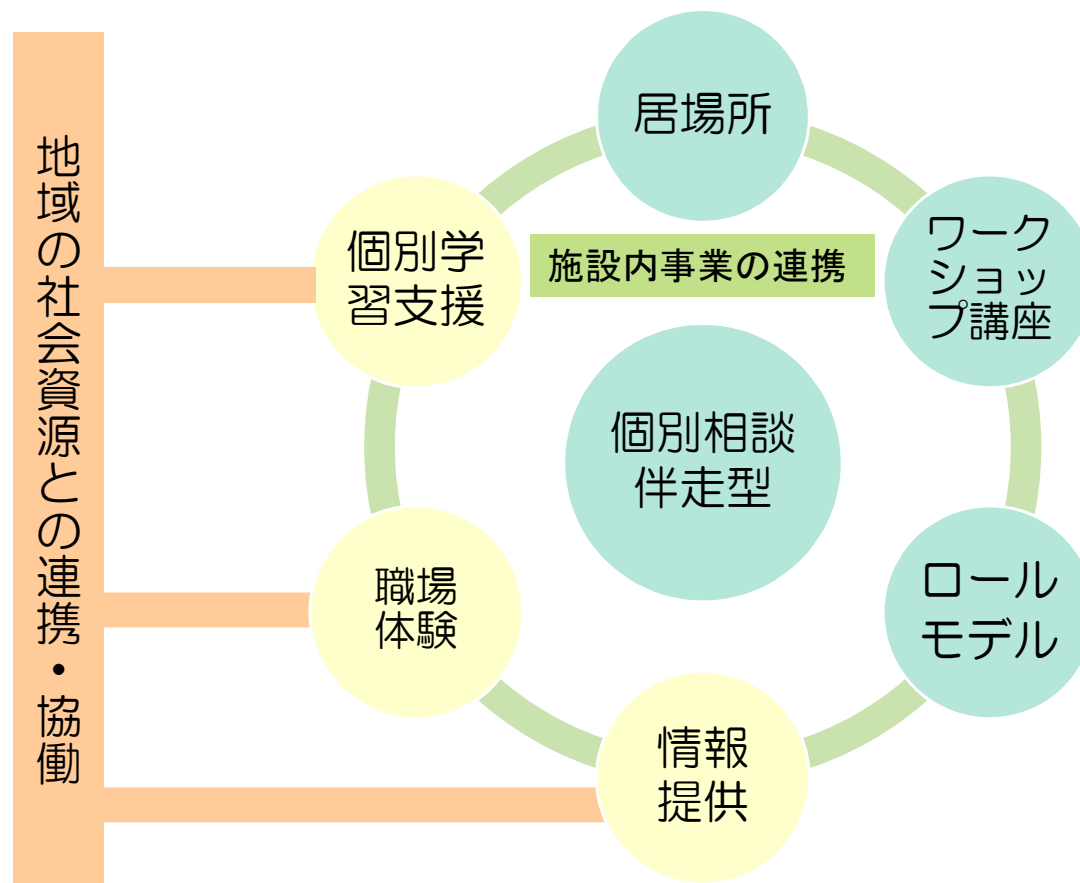
対象者それぞれが抱える困難は異なるため、入口から個別の見守りが必要となり、そのための厚みのあるマンパワーを要する。

すべてを男女共同参画センターで行う必要はない

福祉や教育の支援
機関や学校現場の
協力

個別学習支援を行
う団体や職場体験
の受け入れ先など
社会資源の掘り起
こし・連携

具体的な事業実施方法



具体的な事業実施方法

①カスタマイズする

各センターの経験や体力に応じて、
具体的事業を選択

②センター内外のネットワークで支援

自施設で実施か外部資源との連携・協働で
実施かを選択

☆実施できる事業に○印をつける

実施例

内容	自施設 で実施	外部と の連携
1 個別相談 (伴走型)	○	
2 居場所		
3 個別学習支援		○
4 ワークショップ ・ 講座	○	
5 ロールモデルの 紹介	○	
6 職場体験		
7 情報提供	○	

これまでの先行・類似事業一部《参考》

内容	実施主体
1 個別相談（伴走型）	〔内〕 せんだい男女共同参画財団 〔外〕 インクルいわて
2 居場所	〔外〕 ウィメンズネットこうべ 〔外〕 インクルいわて
3 個別学習支援	〔内〕 せんだい男女共同参画財団 〔外〕 慈有塾、ウィメンズネットこうべ（WACCA）
4 ワークショップ・講座	〔内〕 男女共同参画センター横浜南、尼崎市女性センター 〔外〕 インクルいわて
5 ロールモデルの紹介	〔内〕 男女共同参画センター横浜南（4の中で実施）
6 職場体験	〔内〕 男女共同参画センター横浜南、尼崎市女性センター
7 情報提供	

ヒアリング調査の報告 - 尼崎市女性センター

項目	内容
事業開始の経緯	元々、女性の就労支援事業に力を入れていた生活保護や母子家庭などの生活困窮世帯が多い地域特性
ターゲット	就労を希望する母子家庭の母親・経済的自立をめざす女性
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 個別就労相談付き自立をめざす女性のためのパソコン基礎講座 しごと塾（対象は就業を希望する女性、生活困難に限定せず） ジョブ・トレーニング（事務室や併設カフェにて）
連携機関	尼崎経営者協会、尼崎雇用対策協議会、兵庫労働局
特徴	就職をせかさず、その人の歩幅で歩めるように「いつ戻ってきてもいい場所」だめでも次の選択肢を
課題	事業形態の変化（その時にやれる方法で継続）



ヒアリング調査の報告 - ウィメンズネットこうべ

項目	内容
事業開始の経緯	2013年女性や子どもが気軽に立ち寄れる居場所を開設 2015年内閣府モデル事業採択「女性たちの学びと就労準備の場」WACCAスクール試験的实施
ターゲット	シングルマザー、子どもがいないシングル女性
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・保育付きで集中して学習できる場、交流の場を提供（「学ぶ」という同じ目的で交流は学習意欲を高める） ・就労体験（古着ショップにて）
連携機関	行政、中学校SSW、児童相談所
特徴	①誰でも来れる、②出口がある、③戻ってこれる
課題	継続するための資金難、人材難



ヒアリング調査の報告 - 慈有塾

項目	内容
事業開始の経緯	2008年から家出少年少女たちに勉強を教えはじめる 2014年慈有塾を設立
ターゲット	貧困や厳しい家庭環境等様々な事情により教育機会を得ることができなかった若者
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・高卒認定試験、大学受験の合格を目標とした学習支援 ・相談支援（奨学金の申請方法等） ・学力に応じたキャリア形成支援
連携機関	一般社団法人Colabo、八王子食堂ネットワーク、児童養護施設等
特徴	ボランティア講師が毎日授業を実施
課題	連絡がとれなくなったり、やめてしまった生徒のフォロー 他機関との連携強化



全国の男女共同参画センターでの実施に向けて

日時	内容
5月21日	全国女性会館協議会総会にて、概要報告（研修予告）
6～7月	研修資料作成
	研修参加者募集
8月 または 11月	NWEC「男女共同参画推進フォーラム」または 全国女性会館協議会「全国大会」の分科会で 主としてセンター職員向け研修開催予定